

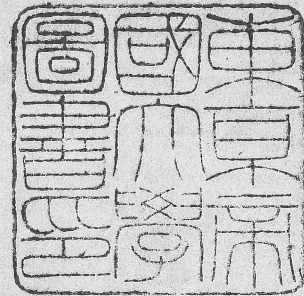
小條五代記

卷十

G 29

111

G29/777



B 34229



小幡又代記卷中十目録
 小田原籠城松曲橋攻入事
 兵法勝負の事
 三浦三崎の地氣とどれをうける事
 相模宝蓋山旧迹の事
 足原新六郎氏直へ逆心の事
 名林防一平卒の事
 小幡氏直没落れる事
 大の草と海乃とを捨てる事
 老て小童と交とむる事

るおつてゐる。

廿五

女

○ 多々々々

とく

ら
ま

多子入主八

て

七

五

三

東方。若子門濱の角矢倉と名付。是より
一町計上。越え人外。後門寺と名付。一町計
程より。ある地。形なり。是へ若寺の地。なる。よ
りて。わが名付也。是より又。海と。塩。土。より。ま。い。り。を。
帰。と。う。け。城。の。内。より。橋。と。一。つ。海。は。是。と。曲。橋。と。
名付。山。角。上。若。寺。の。嫡。男。に。郎。左。衛。門。尉。次。男。を。
左。父。子。三。人。の。お。お。り。なり。然。し。秀。吉。云。小。田。
衆。と。一。秀。吉。の。時。は。は。曲。橋。と。う。き。益。な。り。や。
帰。と。彼。里。と。く。く。る。橋。と。号。し。橋。と。う。き。と。こ。
晝。の。城。中。より。ぞ。く。土。井。は。鉄。炮。と。う。け。懸。と。う。る。
り。

は。若。子。門。と。い。て。海。の。家。康。云。の。せ。め。口。ナ。り。は。持。
曲。橋。は。ある。井。伊。共。部。が。補。正。改。め。り。ナ。り。
共。部。が。補。正。と。い。て。曲。橋。と。う。き。と。う。き。と。う。き。と。う。き。
ナ。め。ま。と。月。と。う。き。六。月。廿。又。日。の。夜。半。は。い。り。
と。で。よ。海。と。う。き。と。と。城。中。より。鉄。炮。と。う。き。
け。矢。を。び。の。も。に。天。地。震。動。し。り。鉄。炮。は。
ある。免。と。う。き。と。の。を。教。と。う。き。と。う。き。と。う。き。
海。口。又。六。月。の。日。の。夜。半。は。い。り。海。口。
り。う。て。前。後。左。右。と。う。き。と。う。き。と。う。き。と。う。き。
か。あ。ひ。い。と。う。き。あ。る。は。い。と。う。き。と。う。き。と。う。き。

歌とていふ。とて渡りまらんぐ井。逆後木とて
彼に。築地へ入れわたり。塙一逢中ふる。てせの
そと。ふ事。とて。つる。わて。とて。歌。の。流。より
くり。城。内。丹。丸。を。焼。き。て。白。晝。に。わ。り。地
の。物。口。を。通。て。は。な。り。数。ま。れ。加。勢。か。り。勢。を
い。い。の。家。を。り。地。く。り。つ。て。人。救。へ。云。霞。の。こ
ろ。半。時。計。を。と。い。ひ。の。歌。を。く。へ。と。引。退。く。
明。し。と。く。山。角。上。監。ち。父。子。三。人。門。と。ひ。り。た。
切。て。出。歌。と。し。り。百。余。人。討。捕。を。り。園。の。歌
く。く。て。は。や。く。方。角。と。う。ま。ひ。水。堀。は

へて死せる者千余人。別和も。夏の。邊。より
ち。せ。り。後。に。小。田。原。新。城。百。余。々。日。弓。鉄
炮。あ。く。せ。め。と。り。か。つ。と。と。終。に。歌。味。方。
人。も。と。と。わ。て。せ。と。後。に。と。と。和。の。戦。ひ
に。歌。丹。丸。家。康。云。家。中。井。伊。共。り。少。補。城
中。は。山。角。上。監。守。父。子。三。人。方。士。と。ね。え
て。合。戦。し。天。下。に。名。を。え。後。代。に。名。を。後。を

○兵法勝負の事

見。し。者。昔。天。心。の。は。か。ひ。根。家。慈。角。と。い。ふ
兵法。人。相。別。小。田。原。と。い。ふ。天。下。に。双。の。名。人

たゞいふをてか。其法太刀にひきぬき

いさぐれを伊呂波のひびきやうに。延一水

除陸奥身成照とく。文武の大なり。后下尸

くろひ。羗角とくかくと尸共は人來て。せよまんなる
 徹ミゼン菴マツ流リウと名付ナヅケ人ヒトよとへい。び者シヤ水ミヅの卦ケ而ニと

見たり者なり。毫岩山太郎。防。かくれ
て兵法の秘術と傳ふ事。一。かくれ。や。さ
ふ勝事と云ひ。り。り。せ。れ。此。古。志
ひ。べ。云。陰。奥。守。守。て。昔。楚。の。項。王。無。と。ま
ま。く。は。ふ。者。なり。然。ん。も。二。人。一。敵。對。と。力
人。と。對。事。と。ま。ふ。ん。と。い。て。汝。と。け。ふ。事
と。か。く。の。法。し。と。扱。又。せ。の。宣。王。勇。と。こ。の
ひ。事。と。孟。子。よ。と。ひ。た。れ。孟。子。答。て。汝。と
れ。て。め。と。て。い。く。う。ま。い。け。ん。と。わ。く
これ。は。あ。う。ん。や。も。ひ。け。の。勇。一。人。一。敵。と

者也。云々。今。毫。角。が。海。か。が。而。乃。其。は。是
だ。か。ど。大。勇。と。い。ふ。文。王。武。王。か。の。い。の。武
と。ま。の。う。げ。を。た。を。殊。一。仁。政。と。な。さ。か。い。天
り。六。年。か。か。し。是。百。子。万。人。の。對。と。る。大。勇
か。り。は。大。勇。ハ。仁。義。と。り。か。り。又。小。勇。血。氣
乃。志。と。さ。と。く。也。を。な。し。治。へ。と。び。人。の。氏。庫
公。乃。次。男。せ。り。い。と。で。を。る。文。武。の。ま。人。を。り。
天。正。十。八。年。秀。吉。公。の。病。は。切。腹。し。治。ひ。ぬ
は。名。も。雲。院。殿。逸。岳。園。公。大。居士。と。号。と。然。は。は
毫。角。今。武。州。に。戸。人。と。く。大。名。小。名。と。ま。り

ありき。なつめ。乳のそて。振る。天下より。かかれ。さ。
 鹿角に。戸に。たれ。も。と。お。く。を。て。く。う。う。う。で。
 三。え。と。う。う。え。れ。と。打。と。う。と。て。小。熊。と。あ。わ。ひ。
 せ。と。打。と。せ。と。の。う。ま。り。を。あ。さ。さ。く。や。て。
 愚。人。の。虫。を。火。へ。と。小。熊。か。う。へ。と。そ。う。
 う。ら。よ。り。も。打。と。う。う。う。人。と。ん。せ。ん。と。教。え。し。
 小。の。り。更。は。後。と。上。則。大。う。へ。人。も。う。り。
 小。の。り。更。と。の。あ。方。より。注。と。わ。て。熊。と。同。一。
 人。の。力。脇。指。と。お。り。お。ひ。ぬ。ね。人。の。の。東。西。へ。
 小。の。鹿。角。の。大。筋。乃。小。神。と。さ。る。と。の。め。ら。れ。り。

新編 日本書紀 卷之六
 鹿角に戸にたれもと

ありき。なつめ。乳のそて。振る。天下より。かかれ。さ。
 鹿角に。戸に。たれ。も。と。お。く。を。て。く。う。う。う。で。
 三。え。と。う。う。え。れ。と。打。と。う。と。て。小。熊。と。あ。わ。ひ。
 せ。と。打。と。せ。と。の。う。ま。り。を。あ。さ。さ。く。や。て。
 愚。人。の。虫。を。火。へ。と。小。熊。か。う。へ。と。そ。う。
 う。ら。よ。り。も。打。と。う。う。う。人。と。ん。せ。ん。と。教。え。し。
 小。の。り。更。は。後。と。上。則。大。う。へ。人。も。う。り。
 小。の。り。更。と。の。あ。方。より。注。と。わ。て。熊。と。同。一。
 人。の。力。脇。指。と。お。り。お。ひ。ぬ。ね。人。の。の。東。西。へ。
 小。の。鹿。角。の。大。筋。乃。小。神。と。さ。る。と。の。め。ら。れ。り。

格くわくといふも勝せう負ふといふもふんをとり。小
然せういづくも西やより出で。老らう角かくへ来きより出で。向むかふ
取とり。うづとわなんい。山さんを渡わたる。云い。老らう士しより
が。是こと見みる。い。勝せう負ふ。元げんの首くび。こゝの老
角かくも。うづと。二ふた。や。され。と。不ふ。義ぎより
おの。主しゅ。後ご。主しゅ。云い。撃げきと。あ。お。若わ。後ご。身み。さる
を。お。然しか。若わ。木き。刀たうと。お。たの。ひ。や。く。頭かうと。な
で。わ。さ。う。お。老らう。角かくと。こ。と。を。か。く。は。老らう。角かく
され。と。さ。て。わ。う。ひ。び。と。さ。で。さ。り。是こ。う。く
ち。の。あ。う。わ。れ。さ。り。と。上うへ。老らう。角かく。山さん。へ

向むかて。取とり。い。く。勝せう。事じと。え。ん。是こ。運うん。命めい。の
作さく。お。前ぜん。お。た。り。細こ。で。老らう。角かく。い。大だい。畏ゐ。の。大だい。力りき。あ。る
れ。う。お。然しか。と。わ。さ。り。て。き。一いち。打うち。と。上うへ。取とり。い。ま
を。り。お。然しか。い。お。男おとこ。や。う。き。か。れ。た。功こう。者しや。ら。り
先せん。相あ。打うち。て。け。う。と。と。と。則すなは。ち。は。接けつ。と。点てん。と
下した。取とり。お。葉は。の。さ。く。老らう。角かく。一いち。打うち。と。う
お。う。お。然しか。と。い。と。清きよ。と。さ。と。と。と。格くわく。と。と。押お
け。う。と。う。と。腰こし。より。下した。お。さ。く。れ。い。老らう。角かく
川かわ。へ。さ。う。さ。は。う。さ。り。さ。り。さ。う。と。老らう。角かく。力りき。
と。さ。の。さ。う。是こ。れ。の。を。退ひき。と。り。さ。う。と。人ひと。と。

威をくみたり。是血氣乃勇士といひ。
 かきふわりと。小然ハ項王といふこと。
 張良がよりことと。自と。歌はくこれ
 こと。これいふこと。柳の枝は。おのれのまゝ
 こと。變動は。いふが。歌ふ。門で。轉化
 こと。二。此の云。小然。其は。さひ
 わい。まりと。P。され

○三浦三崎の地景とこれなり

是。今。名。為。國。の。名。不。田。次。たり。と。た。
 相模の國。三浦三崎。は。由。り。名。不。田。次。と。い。
 名。不。田。次。の。せ。古。昔。よ。と。た。け。く。む。と。と。も。
 末代。お。む。く。あ。く。人。梯。かり。され。他。の。名。不。田。次。
 を。て。千。金。と。く。一。毛。三。崎。の。名。不。田。次。り。
 と。と。く。目。と。や。と。り。ふ。云。義。と。後。を。り。山。
 海。の。凡。致。大。湖。の。万。氣。や。も。く。い。へ。い。ち。を。と。
 三。崎。と。号。し。と。事。い。と。れ。か。と。あ。も。り。と。
 相模國。三浦三崎。の。あり。る。海。中。へ。く。か。り。
 ぐ。び。む。り。又。東。より。安。房。の。國。次。の。後。あ。の。海。中。へ。
 せ。び。り。乃。其。れ。海。り。八。里。び。内。海。上。に。依。り。下。総。
 武。益。み。ヶ。國。へ。海。り。扱。入。る。り。伊。豆。國。河。素。

あゝとやむふんと。此邊松刈

しりぬき。いで勝り。あ夕周よ。母子の

勢も物わたりなり。雄勝が勝陸奥

松勝やど。まう勝の夕。庭。おれびさ。後

あわりのそく。な。麻勝勝常陸

浦人も。秋やさ。びり。と。わ。れ。る。麻勝が勝

乃沖。は。一。か。凡。水。勝。が。勝。越。中

と。と。く。も。ゆ。さ。ふ。け。ら。ん。橋。乃。水。勝。が。勝

乃。ゆ。が。さ。の。秋。荒。井。勝。武。越

く。さ。う。け。の。荒。井。の。勝。乃。か。さ。勝。と。ん。て。や

表。山。勝。い。ゆ。ん。清。ん。勝。後。河

い。れ。あ。や。清。ん。勝。の。み。か。の。浦。ゆ。い。ん。え

は。ゆ。お。り。い。も。か。り。岩。勝。後。中

と。あ。き。さ。さ。の。母。の。け。こ。そ。久。々。れ。ま。う。二

表。か。り。岩。勝。乃。松。唐。勝。通。に

と。秋。波。の。み。つ。の。み。は。み。ど。り。か。り。松。よ。を。越。る。

志。賀。乃。う。う。神。勝。松。刈

神。勝。の。わ。り。勝。を。ん。と。ど。敗。ま。な。つ。び。こ。り。ゆ

かん。だ。る。な。い。か。り。あ。松。勝。越。中

そ。と。の。勝。の。の。れ。れ。志。賀。も。は。と。い。ふ。勝。さ。あ。い。る

こゝろへてゝあるやも。月も海なり

と云く。是か此世と云ふか。月でが儼

乃。海の子。燈が海に

志かみて。燈が海の子より。葉の。波こそ

風の。うらぬ日ぞ。それさ。おど。海。奥。別

おど。海。奥。別。の。小。海。と。より。海。と。より。名。あ。が。て。記

し。か。し。海。と。三。浦。三。海。の。海。上。一。海。ヶ。海。と。云。く。

大。さ。なり。海。なり。は。海。の。三。海。海。の。前。陸。地。と。云。ふ。町

と。か。し。東。西。へ。三。十。町。行。長。く。横。へ。う。ひ。き。き。り。

又。海。の。海。に。さ。よ。長。那。海。屋。が。海。大。海。と。い。い。く

ゆ。え。わ。る。三。つ。の。海。なり。は。海。城。が。海。の。三。つ。の。海

小。山。白。い。海。と。云。く。三。海。の。海。の。山。と。云。く。

り。さ。ぎ。に。さ。ぎ。で。海。町。の。入。に。わ。り。は。さ。ぎ。の。海。と。云。く。

海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

里。の。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

海。の。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

わ。る。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

丹。海。南。大。明。神。の。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

海。の。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

里。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。海。と。云。く。

附注

わがく記きがうづも三月の怪あやひ常とこと申まをと
きく引ひき下ひき浮うきとかりぬまにこころま入いれに小こ橋はしハ算さんと

わかく記あかしがうづも三月の隘さへ。常とことわを
 きく引ひき下くだ浮うきとたぬまに。へは小橋こはしの美みを
 みどとがどとどよそみられく。松橋まつはしぞう由
 の詠よみと。是こゝ丹に赤あかと。漸やがて赤あかもみられぬ。
 皆人へはく乃汀のていはななく。居ゐく所ところ傍そば磯いそ
 傍そばより較くらの益えきと。波なみよりしうづれぬ。そ
 益えきみらぶか。あまのくもる。詩うたと。うそふ
 さ。奇きと沉吟ちんぎんし。雲うみの海うみの具ぐと。りや
 せり。益えきの最も久ひさ人ひとと。うそふ。かたれ。来きる。町まちと。句く
 出いで。うそふ。益えきと。ねわげ。水みづ御み。酒さけと。く。

句絶しとてさ人い。盆とこれゆゑとてええ人
 人をとり。織は孫事の内経具ぞう。昔か
 國よび例わり。曲水の宴と云事。桃の苑さ
 かりなり。川邊の汀。人かも居く。水よよ
 里盆とかりて。そ日の具とひく。苑の妙
 かうとて。清ふ絶。我朝よも中古。はては
 多うなり。とも奇れ起。いふとや。清い
 天子苑。醉と有り古奇ふ

孟城。わさの門也。もながさむや。をえふ
 老。まう。いひん。とより三。海。の風。氣。
 他。より。か。る。成。康。氏。改。二。日。止。滞。ぬ。る。て。小
 田。原。へ。渡。城。上。流。ひ。ぬ。富。浦。の。致。遠。の。へ。け。く。と
 なる。

○相模宝蓋山旧跡の事

見。し。き。今。三。浦。三。嶋。磯。山。の。風。氣。と。浦。の
 の。氣。久。し。く。も。魚。を。漁。かり。造。り。魚。を。吾
 妻。鏡。の。文。書。と。見。ゆ。り。三。嶋。宝。蓋。山。の。地
 形。世。に。あ。く。そ。る。ふ。り。右。大。將。叔。朝。臣。山。庄。と
 ぬ。ま。り。れ。ん。ぐ。り。吉。日。と。な。り。建。久。又。年
 甲。寅。八。月。朔。日。二。三。浦。三。嶋。へ。渡。水。一。如。ふ。

一、

後。いまだに美しきなり。是れ。是れ。風氣。よも
ふかき。わく。と。風。吹。淡。う。と。と。又。三
海。の。前。海。城。が。あり。ま。は。極。北。候。な。る。面。白。さ
磯。山。乃。氣。多。そ。ひ。かり。たり。是。より。て。新。物
云。於。家。云。我。乃。四。分。二。勝。へ。毎。年。表。示。正。治。元
年。と。出。一。活。ひ。り。天。明。の。軍。三。勝。の。極。北。
水。見。物。多。べ。と。建。曆。二。年。壬。申。二。月。九。日
屋。み。ぎ。お。と。と。と。なり。ゆ。二。勝。へ。入。涉。し。て。建
保。三。年。二。月。日。又。年。九。月。安。貞。三。年。二。月。廿
一。日。同。四。月。十七。日。将。弁。發。法。の。由。程。さ。し。小。島
に。あ。り。又。寛。喜。元。年。己。丑。三。月。十七。日。辰。刻。新。治
の。軍。三。勝。の。磯。山。に。赴。つ。た。ゆ。え。沙。し。り。相。別。
武。州。と。も。の。由。程。駿。河。乃。前。司。水。船。と。り。かり。
海上。あ。く。發。法。泳。奇。わり。依。原。にて。桑。門。村。む。女
と。わ。と。も。か。ひ。二。葉。し。さ。か。さ。う。う。ん。う。と。と。と。と。
あ。う。と。具。わ。り。と。と。と。の。ち。と。と。と。山。陰。の。け。い
と。う。海上。の。眺。め。法。然。と。と。と。と。が。う。せ。給。
月。十九。日。小。島。也。月。二。年。庚。寅。二。月。十九。日。將。軍
家。三。勝。磯。山。の。死。さ。り。り。由。程。湯。ん。の。を。あ。武。州。六
浦。の。津。し。り。り。水。舟。し。り。り。海。上。り。て。發。法。わり。

若菜の児童おとろされ。松中あつたを依
 一。連歌とけし録ろ。相別武別以下事ある。
 けて、後主後河前目とす。わきまをたて
 義行くさどと云事か。お國司武蔵守泰
 時相摸守四房基經親り。流行どく、秀句
 と献ぜり。印とも。湯金敷代の將軍。三邊の沖
 而より急沖ろく。振るの由整具のへあが。
 右の趣。東ひんの文を写し。ゆる老也。くあ
 地の系す。れろろふ。にて。頼朝をとも。代
 代の將軍。破山記の町をわく。ひをせ。ひ。由整

弟とて。かされ。毎年三邊のほへ渡り。る。て。わ
 奇策儀の由整ひ。と。ひひ。おくと。への眺り
 をま。り。ろ。ろ。城のへ海。り。る。る。海。城。の。見。入。
 物見。城。り。ろ。石。細代。油。煮。三。津。長。渡。の。浦。ろ。ろ。千
 艘。万。艘。ろ。ろ。舟。と。れ。か。ぐ。と。ろ。ろ。た。せ。む。ろ。ろ。と。水。を
 流。り。て。か。ぐ。ひ。か。さ。渡。か。國。を。で。も。や。ろ。
 里。天。心。四。年。の。は。か。ひ。三。友。と。云。唐。人。戊。戌。の。虎。の
 年。判。と。い。て。い。ろ。ろ。海。あ。り。は。海。り。二。年。月。の。戊。寅。七
 月。二。日。一。黒。舟。三。邊。の。渡。ろ。る。唐。人。は。渡
 を。ん。ろ。る。黒。舟。子。艘。流。か。ぐ。た。せ。む。ろ。ろ。と。い。て。い。ろ。ろ。

其のちも多しとて、（一）改め氏改の権使
 として安南を治むる人、（二）海へ来る唐と
 日本乃に海を各賣買の舟ゆへくぞ見え
 之を在家千余戸あり、鵜鳴物吹ひやそ
 て宮院より舟とてとる。孟子の云、（三）穀とをばひ
 せり。元年、（四）海に除義法を氏親、（五）海
 城とて、（六）浦田東に双の渡をるふ、（七）門を氏
 直舟大乃、（八）梶原保をり、（九）教百艘の舟とか
 けと。房列里見、（十）在馬に義親、（十一）歌をるふ、（十二）そ
 ちなく、（十三）渡海し、（十四）我ひ居んる、（十五）そちなく、（十六）氏直渡海

（一）このち、（二）家康云、（三）舟大乃、（四）小浜民に在、（五）東門、（六）白
（七）井、（八）兵庫助、（九）多良虎之介、（十）千賀、（十一）孫兵衛、（十二）比、（十三）只、（十四）は、（十五）渡
（十六）り、（十七）居住とて、（十八）当地、（十九）紫昌古、（二十）今、（二十一）と、（二十二）な、（二十三）と

○美原新六郎氏直へ送心乃事

見しをむく。小除氏率て、武田勝頼より矢の雨
 甚。勝頼の城、後河の國、國寺と。二教橋
 あり。氏直の城、後河の中、泉頭、長久保。戸
 倉、志師、渡、ヶ下、あり。泉頭、の城、あり。大友
 玄門也。多目、控、兵、東村、荒川、を、前、守と、願、う。
 是、程、大、なり。ハ、市、南、に、橋、あり。云、勇士と、なり。そ

る。と云ふれ。そ。り。長久保の城は清水太即左
門尉城代と。伊豆の國に任人清水上置。ち
男。國八羽。は。か。び。か。は。大。力。也。氏。氏。は。も。の。か
の。和。と。かん。が。も。和。と。ん。ご。ら。或。阿。具。で。太。良
左。門。尉。と。る。前。へ。す。ま。つ。り。の。麻。の。角。と。二。つ
か。び。あ。き。ん。が。ま。び。二。つ。の。角。と。二。ひ。よ。ふ。き。り。て
引。出。さ。そ。り。氏。氏。も。威。下。給。ひ。諸。人。も。奇。物。は
ぞ。ひ。そ。り。根。又。太。郎。左。門。尉。奥。羽。より。出。い。ふ
岩。の。鶴。毛。と。号。し。と。駿。馬。と。わ。く。り。尾。う。と。わ。く
中。で。ち。い。な。す。わ。り。り。め。く。強。馬。か。り。長。久。保

より。統。軍。の。殿。へ。上。り。み。里。ね。り。は。馬。の。り。え
を。甲。冑。と。帯。し。旗。と。う。印。の。列。し。長。久。保
を。素。野。統。軍。と。目。が。け。ひ。ち。打。て。警。戒。と。云
直。に。地。行。る。根。が。も。い。ぬ。物。の。香。は。金。羽。の。雄。と
と。く。孫。の。和。と。和。が。う。と。統。軍。の。殿。へ。素。よ
い。さ。も。は。せ。び。引。み。り。長。久。保。へ。攻。め。す
か。し。和。せ。と。う。い。さ。い。か。名。を。や。一。年。中。行。義
年。と。い。除。氏。政。常。陸。の。國。よ。と。い。て。合。戦。の
初。太。良。左。門。尉。岩。の。鶴。毛。の。物。は。馬。し。
思。案。が。う。の。り。め。く。美。八。の。官。方。は。旗。を

う。松の権と大わらわし。所切。六角よりなる
は権とわらわ。横と云と云ふ。敵軍勢の中へ
まへて権の石づきと云ふ。そのへりよりわらわ
ひ。妻ひのこころと。一拂ひよりみずく人討ひ
ふ。わらわのいひて死する者。を殺と云ふ。と。
敵軍のそとよりいひ。えと云ふ。極威と云ふ。強
と云ふ。敵と云ふ。い。と名と云ふ。天割
の者也。志所。漢より大石。越後守を城と。是の
三枚橋のそと。海浦と云ふ。海城と云ふ。せが
ひ。と云ふ。也。戸念より。是。新六郎。居城と

い。人。松田尾張守入道。長兄也。他家と云ふ。是。本
と名。新。後。三枚橋と。戸念と。城ひ。と云ふ。
と。れ。三枚橋の。人。新。戸念へ。働さ。分。捕。る。名
と。る。事。新。より。なり。成。車。ひ。と。云。及。び。給
ひ。大。約。一。人。成。弱。な。れ。士。卒。は。ま。く。臆。病。よ。る。
て。と。れ。と。云。と。云。れ。新。六。郎。や。生。が。ひ。る。
な。く。と。云。と。云。謀。殺。と。云。天。正。八。年。の。冬。勝。頼。一。味
一。成。車。へ。り。と。引。あ。り。月。十。年。三。月。勝。頼。ハ。信
長。公。の。ま。り。が。り。び。給。ひ。ぬ。然。り。は。成。車。は。
原。新。六。郎。が。首。と。云。の。と。云。へ。さ。り。父。尾

法守へ道標を傳へしに、入道が年々來の忠

功お清賢とゆへ、法守は後の眉目とぞや

とありける。と後出家し。年久しに隱家と

てる。とあり。新六郎と。世はなきてんぐり。

父尾法守謀叛ととりて。秀吉とあり。あり。

國東へ馬をたれし。尾法守し。海切はへき

り。とあり。秀吉と云。天正十八寅の年。國東

を發白し。法守。氏直伊豆の國へ。國八ヶの人

教并出。合戦し。軍令と。天は健とへし。

下。とあり。家老尾法守へ。とあり。とあり。

法守とへ。西國將れ長陣。かきとへし。とあり。

とあり。とあり。勝事とえ。法守とへし。

とあり。とあり。國八ヶの軍。とあり。とあり。

四月三日。とあり。責とあり。とあり。とあり。

とあり。とあり。新六郎。父とあり。とあり。

有。十二日の。和町中へ。火とあり。とあり。

とあり。とあり。城中へ。引へ。とあり。とあり。

とあり。とあり。馬助。とあり。とあり。とあり。

一 遂に心をきく。さう次でかゝと。殺しをせよ。との
左馬助の若年。いふに。成程。そむと。し。ま。さ。じ。は。た。
あ。と。か。ら。は。自。由。の。人。也。左馬助は。く。ひ。ひ。
く。ひ。ひ。と。れ。若。年。より。さ。か。り。と。か。く。父。息。り。
除。さ。も。か。い。と。父。子。一。事。一。成。て。若。う。と。引。か。う。
も。八。虐。の。咎。と。も。か。う。一。扱。又。若。と。一。事。り。か。り。も。
又。一。敵。射。せ。む。八。虐。の。恥。の。う。へ。と。も。す。で。と。れ。
か。し。ん。と。さ。か。し。ん。と。さ。か。し。ん。と。さ。か。し。ん。と。さ。か。し。ん。
一。を。也。惟。谷。の。史。記。一。忠。臣。ハ。二。君。ハ。所。ス。と。と。り。
た。は。も。家。の。長。と。る。者。力。と。む。わ。さ。か。い。と。れ。

人。さ。の。の。あ。ひ。義。と。り。て。利。と。と。利。と。り。て。利。と。
ま。は。は。若。親。の。命。と。性。と。と。う。れ。の。若。の。命。い。
を。ま。さ。り。と。り。と。上。城。中。の。人。民。幾。万。人。を。さ。う。
し。づ。け。と。い。ふ。命。と。か。う。が。う。ん。事。弘。神。も。わ。れ。
ん。わ。お。又。疎。の。を。と。け。な。う。ん。や。と。い。ふ。義。と。成。程。
告。あ。う。ひ。ひ。成。程。さ。う。左馬助。忠。功。儀。と。と。と。
信。感。わ。り。内。日。と。扱。さ。と。は。強。者。新。六。郎。二。人。殊。對。
せ。う。敵。は。義。と。さ。う。と。和。田。が。旗。は。是。は。黒。筋。の。
を。ん。く。な。り。持。合。ハ。西。早。川。あ。り。て。敵。は。持。合。へ。
徒。然。三。人。も。と。と。と。を。お。わ。く。と。た。城。中。

し付く。息をえられ。情よりわき。命を失ふ。是
の所ひれ。かゝるひかり。愛より。いで先哲も。老
子。の思一言。とり。成。世の滅亡。あ。古。のた。免
れ。た。わ。く。と。新。六。脚。が。あ。かり。と。云。む。人。あ。て
あ。人。の。滅。亡。付。く。是。ゆ。へ。れ。ゆ。へ。と。ゆ。は。し。る。事。皆
ひ。が。事。か。り。あ。人。の。あ。人。の。あ。つ。つ。部。の。天。軍。よ。の。が
ま。天。の。あ。つ。つ。災。ひ。の。あ。け。さ。ふ。る。を。さ。く。時
刻。あ。来。と。し。され。し。

○庭林房一が卒の事

見。し。き。首。房。別。里。見。義。高。と。相。別。小。原。氏。政。り。矢

乃。時。良。妻。房。と。相。摸。の。後。海。を。さ。れ。房。別。海。賊
小。松。二。艘。三。艘。め。く。園。水。よ。相。摸。の。浦。里。へ。ぬ
ま。ま。よ。あ。く。浅。き。の。里。と。獲。一。木。の。あ。が。り。肉
し。の。後。海。と。是。よ。し。り。て。浦。里。よ。秋。妻。と。妻。
新。松。来。つ。と。ん。く。の。負。と。吹。鳴。と。ま。く。と。せ。み。よ
漁。会。大。磯。か。く。へ。も。あ。り。た。れ。小。田。原。浦。へ。も。
あ。り。や。せ。ん。と。月。心。と。天。正。元。年。三。月。又。日。の
善。く。い。小。田。原。浦。よ。小。松。に。又。艘。う。ひ。き。る。と
見。え。し。と。海。賊。来。ふ。と。一。人。云。た。れ。町。さ。つ。死
動。搖。し。新。松。と。ん。と。皆。人。淡。へ。り。を。さ。る。

乃が水よりさきほぐおとけも也。魚も水
田系勢敵とむ。生國されが藤一さよ。三浦の
おざやへあり。人々をわねる。つうおひの
傍にひるふれ。そりぬく。うさほくさのも
か。お軍のさめとつひあが。まての恥辱と
や。い。死てつう。わをぬと事。念限。す。
よえ。お。虎の。下判とつひ。お。事の。若。例。
お。寅の。目と。目。ひ。ぬ。ひ。す。や。よ。

虎とあまのちひられ。ひびり。や。今。今。龍
乃。世の中。是。宗。考。親。王。の。奇。力。の。上。り。

成。ぬ。吉。西。の。人。より。て。目。ふ。す。む。と。あ。る。お。文。今
お。ひ。さ。れ。を。う。や。又。人。ま。る。は。さ。の。こ。あ。ま
くる。お。わ。わ。む。む。虎。は。付。く。の。た。人。古。語
お。わ。く。ん。く。す。り。猛。虎。深。山。より。出。る。百
獸。の。ひ。び。つ。と。人。た。ぐ。ん。せ。いの。内。より。出。る。を
な。う。い。う。て。食。と。り。む。と。や。さ。う。い。ん
ま。お。お。も。の。り。と。ひ。生。の。死。也。び。う。も。と
ま。る。な。く。ひ。さ。う。英。胡。乃。事。なり。お。英。國
越。國。と。く。な。る。ひ。乃。國。あり。い。う。の。王。と。い。う。さ
と。い。ひ。越。國。の。王。と。い。う。白。旗。と。い。う。は。お。國。の。王。

國とわつそひ。當時ハ吳王討す。多岐ハ越
王と返治。そとくひ家もあがり。後ハ越
王しらすけ。生さるれ土の勢より入て。月日ハ
光とも見も。あわんの内ハ。年月と送り
給ひ。越王吳王のせさ。中んとかり。
ま。も急り。か。さ。お。り。て。越王の
命とたすけ。それより。吳王の臣下。お伍子
晋。さ。若。り。多。る。天のわく。と。さ。あ。へ。人
け。て。も。さ。と。う。く。と。ん。く。を。り。越王の命
とたすけ。み。り。ん。事。た。へ。千。里。の。程

さ。う。虎。と。も。れ。つ。が。と。う。と。い。さ。め。れ。た。吳王
月。ひ。後。は。と。て。越王と國へ。攻。め。られ。を。り。そ
後。越王。せ。り。出。吳王と。か。り。か。い。と。云。越王の心
辱。と。さ。より。事。の。さ。り。と。い。ふ。又。一。人。を。り。
そ。い。今。伍子晋。が。い。さ。り。地。治。と。や。て。を。り。さ
を。ひ。ひ。り。を。り。相。模。の。國。よ。り。あ。り。が。家。と。云
わ。り。の。古。奇。ふ

名。あ。り。お。り。虎。や。と。ひ。ん。東。海。に。わ。り。と
ひ。あ。り。の。海。あ。り。が。家。と。い。り。た。も。若。ね。わ。り。
萬。年。ハ。天。正。十。八。年。寅。の。年。と。う。と。滅。と。い。ふ

七月六日寅の日より多き年日了をかく
かゝる寅の年力の日は辰車より海より原お
それより虎の千里の里よりや也天
のわつらつわつらへ根よりをさなりわり保元
のひもての源平お家右の此もさめとてふ
朝家と守りし平治元年より源平をさうひ
源氏打ちけ左馬次義朝討ちて男右共未成
頼朝は生てれ今たより千四の年伊豆の國
姫小治をさされ伊豆と云源色の里をといふ
て源氏に敵はて初とこれ或時山よりへて歎と

こう力命とけかざり歎いて二十一年
を林と送りけい後世にゆく平家を
元暦元年あかしく征夷將軍の院
宣とある遠久元年十一月七日より海より右
大いほじと天に海とあるふがひるる本
とかりり。後と成改氏照二人計あを切
腹しけいられ成成君とていふ二門より太
田十郎小除七郎日新太郎同安房守り
義経も日左衛門右衛門左衛門右衛門
末業までも命かかへるもさる流人と

成ていけくよにいととも日本國のよきとされ
し門がとも中におく一人世はせり天中と云
ふと世の心算とほのうとん左はの云々よ
力のねいひの所ん時やあつと捨てて客との
きしとせり君臣たよはる命と捨てる
をわくもせり天軍のたよりいへるをとね
いへる我も人も命と金く物と心算の心と
しとせり因果の車輪のどくとかんれん
かりけふのやういへる云々根に雲果門と云
む士やいへる云々一はしと耳わりけしむべ

しやいひけり事とせり世は捨るれり氏
正を世しり人けり一秀吉ももまの病り
力家とみるさうとてなひぬい沈まう秋
わくもいへる世の心算の心算は是れな
しは世の心算とせり世の心算の心算
とくひかりけり

○大の草と海道と捨る事

やうを今人の物語とせり世の心算とせり
さしとせりやうの心算とせり世の心算とせり
奇り

柳のすくなくひらいたんび見とまへ柳の失名なり
新古今より

○安んずるものぞなから風子にも松よき
もさずひかりとほぞ紙ざりや面白の奇の
ふとぞひ柳と見れば風わりやうもな
ね又松下やう流くろくもや見えれば風う
かふくこれとんや事さうさうくゆれな
世より人ほくふたがうや人の病はう病一
たうちとがゆきふ方大勢とがゆ二人庭を

修ふまは方人美と傳ふてうかづうこれ
佛乃儒道はねとさう修川の双席おまうと
と智恵と人なうくもふたね物よひわを
抱いそふとのう物といふせもさうさうと
ふ人のふと抱くあうくかせる風情。毛くと記
しと記さうとんう。感うとさうさう。古より
風記雪月見ねといた書と讀て世は名
りんかきうとさう。切の幾い師通うあひて
まふうひあう事なり。然うこれ年をう
ふ。父とまれむがれが物とさうと梅てさうひに

ひすゑへ我ともあづかやあんぴーを

ながみちのひふと。泳およぎ。舟ふねのふも有り。此
 事ことも古語こごに云いふ事ことなり。又またや有り。す
 くたさとしをやりされし。眼まなこ前の落語らくごと
 拾ひろひ。世よの物語ものがたりの中なかにおぢいおぢいといふ。何なんをい
 えぬ古ふる人の言こと事ことと。書うかへおぢいおぢい。戯たふし云いふ
 けいけいといひて。禿かぶ毛けとそり。冷れい庚さの胸むね次つぎ早はや
 懐ふくとあり。正ただ事こと。さそ。侮ひが事ことなり。誠まことといふ
 こと。ひとへは。鶴つる鶴つるの物語ものがたりは。似にたり。後ご見み
 のあざなり。豈あや愧がをわく。さそ。あつたわき
 ごと。人ひとをさる。安やすく。と。いふ。け。おぢい。

冬後の又日記之早

小降又代記卷第十終

寛永拾八年曆

二月上旬

開板

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

